

第1回 あいち多文化共生タウンミーティング 2021 開催結果報告書

2021年10月2日(土)、愛知県は「多文化共生って?～外国にルーツを持つってどんなことだろう～」をテーマにタウンミーティングを行いました。今年は学生を対象に、全3回の連続講座として企画し、第1回は11名の大学生に御参加いただきました。

開催結果は、以下のとおりです。

開催概要

テーマ 「多文化共生って?～外国にルーツを持つってどんなことだろう～」

場 所 あいち国際プラザ2階 アイリスルーム

日 時 2021年10月2日(土曜日)午後2時から午後5時まで

当日の流れ

1 愛知県現状及び取組紹介 (説明者 愛知県多文化共生推進室職員)

2 事例報告

①Man to Man 株式会社 村山 グスタボ 秀夫氏

②心理カウンセラー ラッシュ セリーナ 萌氏

3 ワークショップ

1 愛知県の取組紹介

事例報告やワークショップの参考としていただくために、愛知県の外国人住民の現状及び取組について紹介しました。

2 事例報告

ブラジルにルーツを持つ村山様とイギリスにルーツをもつラッシュ様に、生い立ちから現在の活動に至るまでの経緯や経歴、外国ルーツを持つ故に感じた困難や悩みについてお話していただきました。以下はお二人からお話していただいた内容の要約です。



①Man to Man 株式会社

村山 グスタボ 秀夫氏

日系ブラジル人の始まりは、1908年の神戸港からブラジルへ向かった、笠戸丸です。多くの日本人がブラジルで農業を行うため移民していきました。私はブラジル人の母とブラジル生まれで日本の血を引く父のもとに生まれ、1996年に両親の出稼ぎのため

来日しました。日本に来てすぐ、千葉県のある学校では外国籍の児童はとて少なかったです。挨拶程度の日本語しかできず、給食も食文化の違いから食べるできませんでした。しかし、言葉ができなくても友達ができ、先生のサポートも受けながら、生活することができました。

両親の仕事の関係で愛知県豊田市へ越してからは、外国籍の生徒も多く、日本語教室を通して日本語を習得することができました。振り返ると、当時の豊田市の中学校では、外国人も日本人も一緒に学んで過ごしていて、多文化共生が実現されていたと感じます。これまで様々な大変なことがありましたが、それを大きく変わるチャンスと思って取り組んできました。日本人、外国人双方がそれぞれ自責と捉え、動いていくことが大切だと思います。

②心理カウンセラー

ラッシュ セリーナ 萌氏

小中高大すべてで日本の学校へ通い、当時はまだ外国ルーツを持つ学生が少なく、珍しがられていました。いろいろな人から、「何人？」や「ハーフ？」などの外見に関する言葉や「日本語上手いですね」などの言葉を掛けられることに対してとても悩みました。こうした言葉は、「仲間じゃないよ」と言われているような感覚になります。しかし、言っている人も悪気がないので、注意することも難しく、そこが一番つらかったです。ハーフや外国人というレッテルを貼られた状態で人と関わることが日常で、外国人らしさや日本人らしさを求められたり否定されたりすることが多くあり、自分の居場所について悩むことが増えていきました。



大学生の時、スペインへ留学し、そこで自分をハーフの女の子としてではなく私自身として接して貰えたことがとにかく嬉しかったです。質問攻めにされたり、何人であるかを問われなかったのも、自分らしくいることがどういうことか、実感することができました。大学卒業後、一旦就職するも退職し、ずっと

憧れていた、船で世界一周に参加しました。そこで心理カウンセラーと出会い、初めて自分の抱えていた思いや悩みを他人に話したことで気持ちが楽になり、それがきっかけで、心理カウンセラーになりました。

社会にはいろいろな人がいて、それぞれ違うので、受け入れなくても、認めることが重要です。いろいろな日本人がいることを皆さんに理解しておいて欲しいです。小さな配慮や理解が、誰もが生きやすい世界に繋がっていくので、今後いろいろなことを知って広げて行って欲しいです。

3 ワークショップ

ワークショップでは、前半に深掘りインタビューとして、参加者を二つのグループに分け、事例報告者のお二人とそれぞれ質疑応答を行いました。多文化共生や外国にルーツを持つことについて学びを深めました。ワークショップの後半では、4~5人の3グループに分かれ、自己紹介とグループ名を決めるアイスブレイクを行った後、ワークシートに沿って、外国ルーツを持つ人が抱える悩みや日本人が抱える心の壁

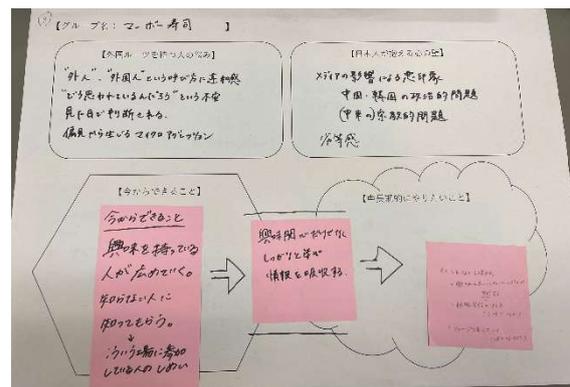


について話し合い、多文化共生の実現に向けて壁を解消するための解決策を考えました。解決策は、今からできる短期的な行動目標と、いつかやりたい、中長期的な目標の二つに分け、検討しました。また、ワークショップの最後には、話し合った内容の発表を行いました。以下、発表順に各グループ話し合いの結果を御報告いたします。

グループ①: マーボー寿司

外国ルーツを持つ人の悩み:「外人」「外国人」という呼び方に違和感がある。「どう思われているんだろう」という不安を感じる。見た目で判断される。偏見から生じるマイクロアグレッション。

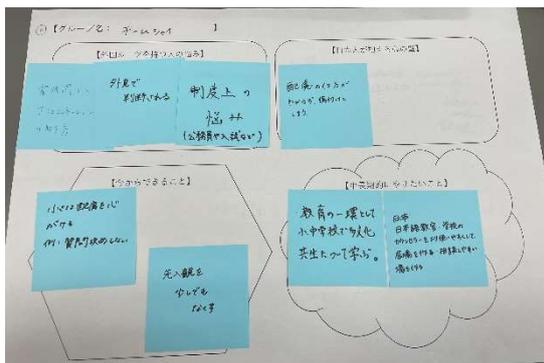
日本人が抱える心の壁:メディアの影響による悪印象。中国・韓国の政治的問題。(中東の)宗教的問題。言語面や海外とのつながりがあり、いいイメージのある外国ルーツを持つ人に対して日本人が劣等感を抱える。



今からできること: 興味を持っている人が広めていく。知らない人に知ってもらう。それが今回のような場に参加している人の使命である。興味関心だけでなく、しっかりと学び続け、情報を吸収する。

中長期的にやりたいこと: イベントなどを増やす。興味を持っていない人に対しても発信する必要があり、SNS 等を活用した情報発信を行う。様々な世代でイメージを変えていくことが必要。

グループ②: チームシャイ



外国人ルーツを持つ人の悩み: 親子で会話をする際、親子の言語が異なることから、コミュニケーションが取りづらくなり、悩みを抱える。外見で判断されてしまう。公務員や入試制度等で制限があり、就職、進学の際に悩みを抱えている。

日本人が抱える心の壁: 配慮の仕方や対応の仕方が分からず、外国にルーツを持つ方を傷つけてしまうことがある。

けてしまうことがある。

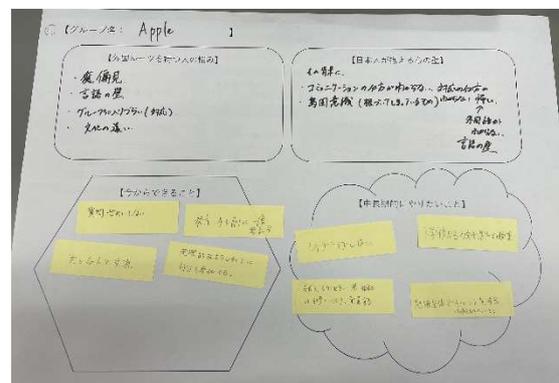
今からできること: 質問攻めにしない等の小さな配慮を日頃から心がけるようにする。先入観を少しでもなくすため意識する。

中長期的にやりたいこと: 小さな頃から多文化共生について知ることが重要だと感じたので、教育の一環として、小中学校で多文化共生について学ぶ機会を作る。日本語教室や学校のカウンセラーをより使いやすくして、外国にルーツを持つ子たちの居場所や相談しやすい場所を作る。

グループ③: Apple

外国人ルーツを持つ人の悩み: 偏見が強く残っている。言葉の壁がある。クラス内等で友達のグループに入りづらくなることもある。文化の違い。

日本人が抱える心の壁: 言語の壁があり、コミュニケーションや対応の仕方が分からない。怖いという感情を抱いてしまう。日本人特有の島国意識が根付いている。



今からできること: 質問攻めをすることで壁を作ってしまうと聞いたので、質問攻めにしない。発言する前に一度相手の立場に立って考える。いろいろな人と交流する機会に参加する。国際的なボランティアに参加してみる。

中長期的にやりたいこと: 小学校から、多文化共生の授業を行う。カテゴライズしないような意識を広めていく。外国人カウンセラー兼言語補助の仕事を作り、学校等に配置し、外国にルーツを持つ学生へのサポート体制を整える。地域全体で多文化共生について考えられるようなイベントを行う。

村山様、ラッシュ様から、大きな可能性を持っている大学生の皆さんがこうして理解を深め、広めていってくれることが何よりも嬉しく、理解が広まっていくことを期待している、とコメントをいただきました。今回参加して下さった皆様から、多文化共生への理解の輪が広がっていくことを願っています。

アンケート結果(一部抜粋)

※回答数 11名

1 このタウンミーティングを何で知りましたか。

チラシ	0
県のホームページ	2
SNS	0
知人からの紹介	2
所属からのメール	3
その他	4
無回答	0

【その他】大学のホームページ、大学の案内、大学からのメール

2 今回参加しようと思った理由は何ですか。

- ・多文化共生に興味があったため。自信が外国につながりを持つ子どもたちへ学習支援をされていて何か活動に生かせると思ったため。
- ・元々興味があり、たまたま大学から知らせが来て、学びたいと思ったから。
- ・大学でダイバーシティの推進活動があり、多文化共生について学びたかったため。
- ・卒業論文で愛知県の多文化共生への取組について書こうと思っているため。
- ・学校での職員さんや教授のお誘い
- ・大学の講義の内容と似たものだったから。
- ・コロナ禍でも何かに参加してみたかったため。
- ・大学で多文化共生について調べていて、話を聞いてみたいと思ったから。
- ・大学のゼミの内容と関連があったから。

3 事例報告の感想をお聞かせください(一つ選択)

とてもよかった	10
よかった	1
ふつう	0
よくなかった	0
全くよくなかった	0

感想の理由をお聞かせください(複数選択可)

活動を進める上での参考になった	8
これまで知らなかった内容を聞くことができた	7
聞いた事がある話ばかりだった	1
つまらなかった	0
多文化共生社会づくりに興味がわいた	6
テーマについてもっと知りたいと思った	3
多文化共生社会づくりについて知識を深めたいと思った	5
その他	0
無回答	0

4 ワークショップはいかがでしたか。感想をお聞かせください。(一つ選択)

とてもよかった	8
よかった	3
ふつう	0
よくなかった	0
全くよくなかった	0
無回答	0

感想の理由をお聞かせください。

- ・質疑応答やワークショップでいろいろな人の考えを知ることができ、より、多文化共生に向けて努力しようと思えた。
- ・様々な意見が聞けてとても勉強になった。
- ・同年代でいろいろな経験をされて思いを持っている方と話せたことで視野が広がった。
- ・今まで考えたことのなかった意見を知ることができた。
- ・ゲストスピーカーの方と会話がたくさんできた点良かった。
- ・新しい考えを知ることができて楽しかった。
- ・当事者の生の話を聞けて良かった。
- ・スタッフの方、同グループの方ともに雰囲気良く、意見交換がしやすかった。少人数なのが良かった。

5 今後、今回のようなタウンミーティングでテーマとしたいこと、やりたいことなどがあれば教えてください。

- ・LGBTの方々との交流などを通して学びを深めたい。
- ・「体験型」として何かいろいろな人と活動してみたい。
- ・活動を行っている企業のお話を聞いてみたい。
- ・“多文化共生”を日本人/外国人の枠に留めず、いろんなマイノリティに焦点を当てて、ミーティングを開くと思う。
- ・日本語教育について
- ・労働問題について

6 愛知県の多文化共生への取組について、何かご意見があれば教えてください。

- ・今回初めてこのようなイベントに参加させていただいて、より他のイベントにも参加したいと思った。
- ・すべての自治体に言えることだと思うが、もっと強く、“自分たちが変わるんだ！”という意識を持たせるために取り組む必要があると思う。
- ・活動や取組を知らない人が多いと思うので、もっと広める活動をするより良くなると思った。
- ・行政や自治体の考えを知りたい。

7 回答者様についてお教えてください。

高校生	0
大学生	11
大学院生	0
その他	0
無回答	0

普段、多文化共生や国際理解教育に関する活動をしていますか。どんな活動ですか。

- ・大学のゼミで異文化交流についてディスカッションをしたりしている。
- ・女性の活躍推進、SDGs、イベント関連
- ・性的マイノリティへの理解啓発を目的としたサークル活動を行っている。
- ・ダイバーシティ推進の委員会で少し活動している。
- ・外国に繋がり持つ子どもたちへの学習支援をする団体を作り、活動している。

おわりに

今回のタウンミーティングに参加して下さった皆様、ありがとうございました。積極的に御発言いただき、大変有意義な会となりました。

あいち多文化共生タウンミーティングは、2018年3月に策定した「あいち多文化共生推進プラン2022」の重点施策の一つで、毎年3回開催することとしています。日頃、多文化共生に関心を持って活動されている方も、そうでない方も、参加していただくことができます。今後も開催して参りますので、ぜひ御参加ください。



愛知県多文化共生シンボルマーク